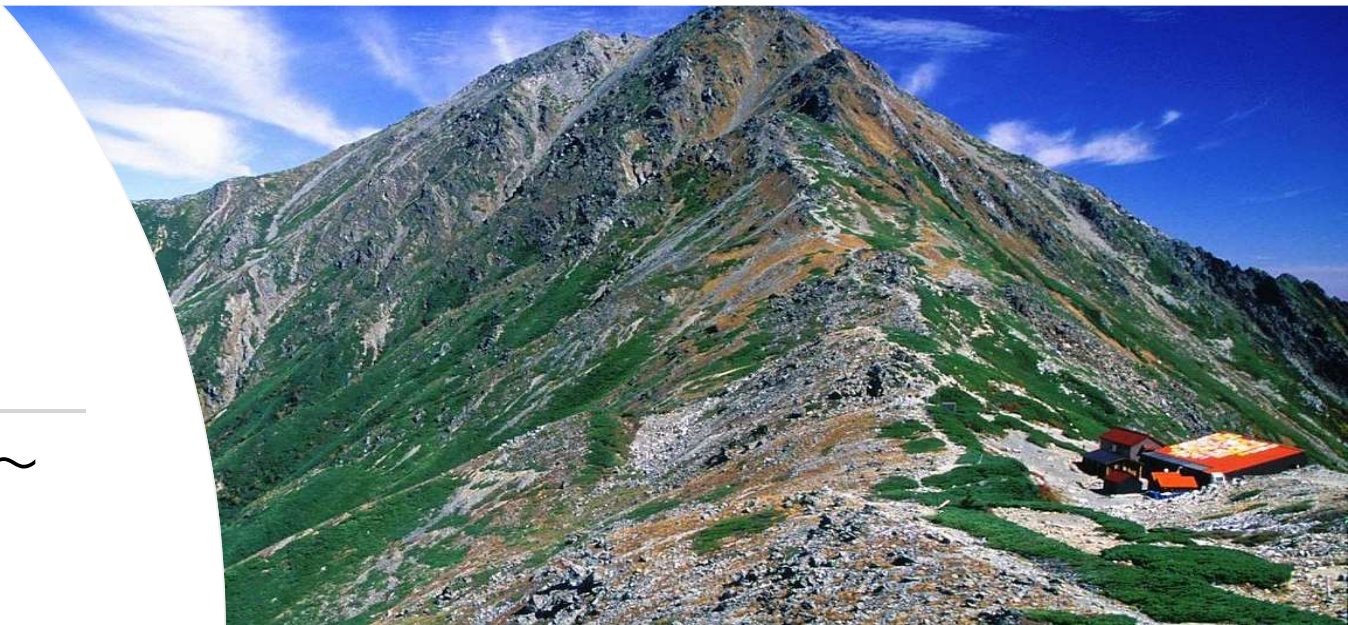


南アルプス市の協議体立ち上げの経過

～10年目の今思うこと～

- 南アルプス市第1層生活支援コーディネーター
齊藤節子



南アルプス市を紹介します。



南アルプス市は山梨県の西部に位置し、日本第2位の高峰「北岳」を有する自然豊かなまちです。

果樹栽培が盛んで、春のさくらんぼ、夏にかけてすもも、桃、秋にかけてぶどうなど年間を通して美味しい果物を楽しめる地域です。

平成15年に2村4町が合併して生まれた市です。

平成27年に生活支援体制整備事業に着手し、第1層生活支援コーディネーターが介護福祉課に配置されました。

令和6年4月現在

人口	71,511人
高齢化率	28.3%
第1層協議体	平成28年12月設置
第2層協議体	16か所設置(小学校区圏域)
第3層協議体	59か所設置(自治会圏域等)



地域の人たちと出会って分かった 協議体の必要性！

「1人暮らしで足が弱くなったから介護申請したけれど、本当は今までどおりの生活がしたいんだよね。手仕事が好きだから、近所の90歳のおばちゃんのためにリハビリ用の材料を作ってやってるさ。喜んでくれるのがうれしいさ」



一人ひとりみんな違う「生活暦」「生活の価値観」
共通しているのは

「やっぱり、**我が家で自分らしく暮らしたい**。でも、前よりチョットしたことができなくなってねえ。」

ちょっとしたことをお手伝いできるのは、身近に住んでいる人たち。公的サービスに＋そんな地域の支援が出来たらいいのになあ。

「我が家で自分らしく暮らしたい」を「叶えるために「協議体」が必要なんだ！

そんな気持ちからスタートした新米のSCでした。
そしてそれは、今もずっと変わらない気持ちです。

「協議体って住民主体の地域づくり」っていうけれど

「住民主体の地域づくり」決して新しい言葉じゃない。

でも、ほんとにやってきただろうか？

住民アンケート・住民座談会で住民の声を施策に反映してきたというけれど・・・

これまでの行政

住民は意見、要望は言うけれど、その実現のために動かないよね

これまでの住民

「こんなまちだったらいいな」とは思うけど、それは行政がやることでしょ。
だって税金払っているんだから。

協議体を目指す「住民主体の地域づくり」SCの役割

住民

自分の暮らす地域に関心を持つ 地域に暮らす人に関心を持つ
地域の課題に気づく **みんなで話し合う** それは自分事だと気づく
自分たちの力でできることがあると気づく **活動が生まれる 喜び**



SC 信頼関係をつなぐ

行政

情報提供 住民を信じて待つ 住民が動き出したら全力応援

まずは内部の意識統一(市・社協) 8回

外部講師の効果

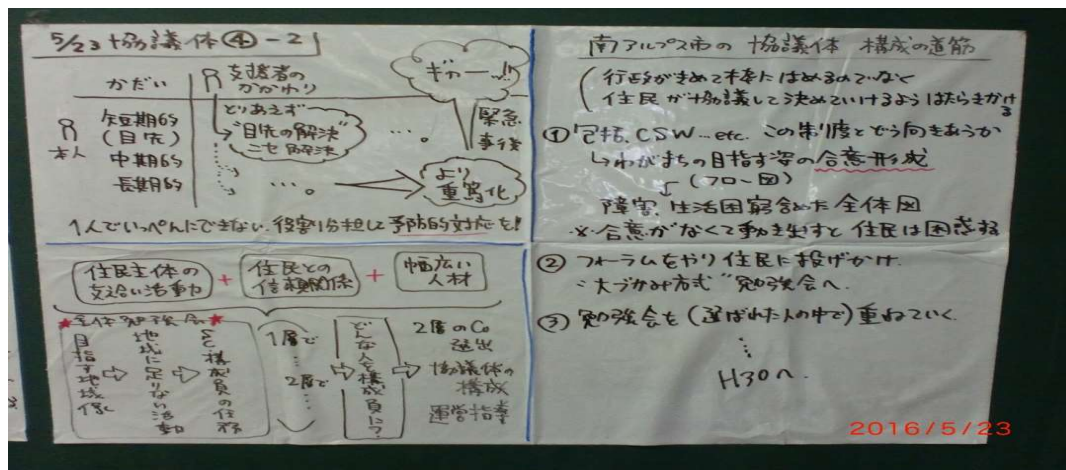
話し合ったこと

これまでやってきたことと何が違うのか？

「あて職」から「手を挙げた人」への転換

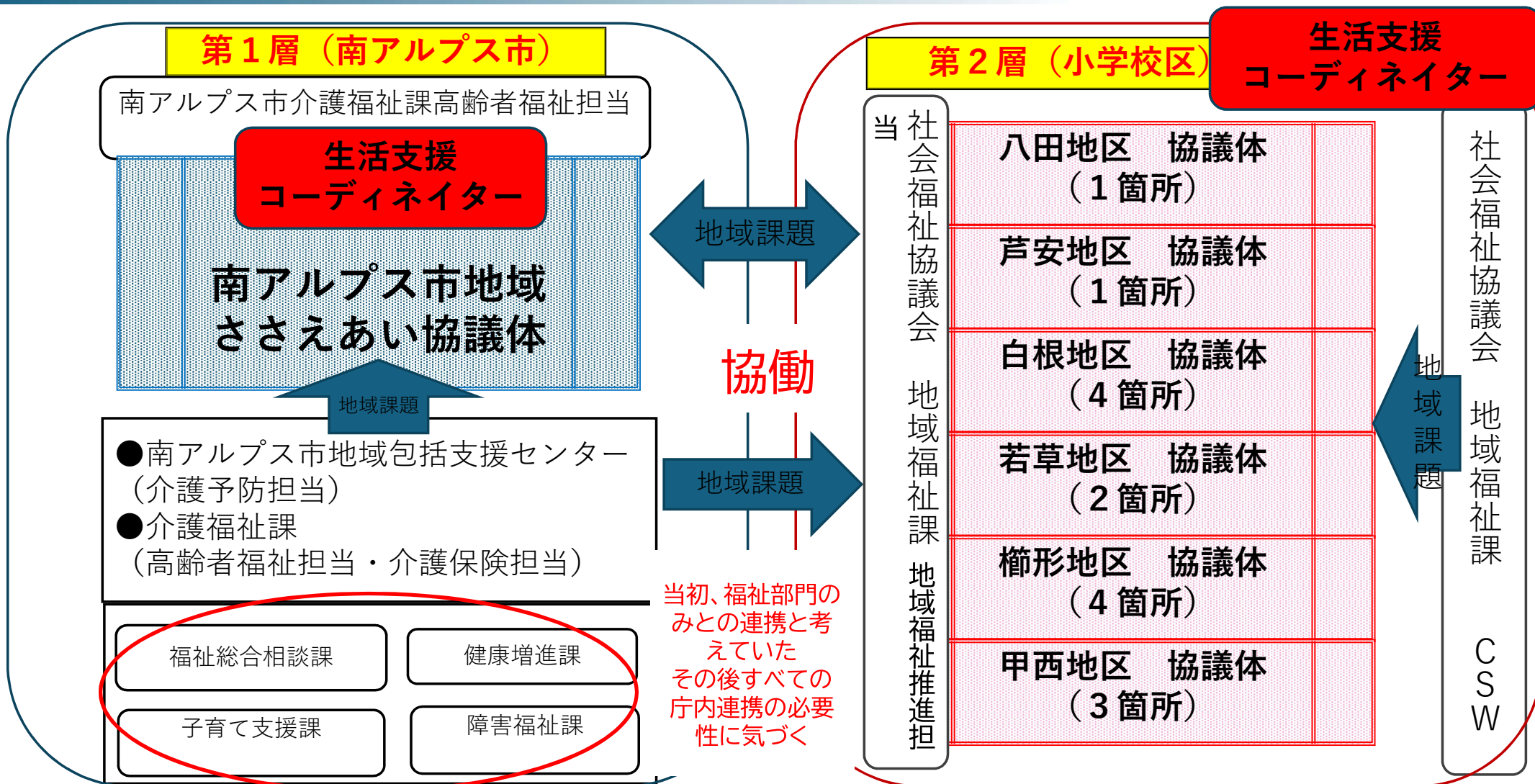
本当の意味の住民主体(行政の覚悟)

行政・社協・SC・住民それぞれの役割の確認



当初の南アルプス市 協議体体制図

3層は考えていなかった



初めて住民に伝えた日 果たして、手を挙げる住民はいるのか？ 第1回地域フォーラム開催(H28.8月)



伝えたこと

- ・南アルプス市の現状
- ・南アルプス市の目指す姿
- ・行政の覚悟

・住民のみなさんと共に
「みんなが安心して暮らせるまち」を目指して協議体
を作りたい！

180名中59名が手を挙げ
た！

熱い気持ちが冷めないうち
に勉強会につないで。

勉強会・住民の考えを聞く どんな協議体にしたいか、誰をメンバーにしたいか、どんな言葉が住民を動かすか

フォーラム後、手を挙げた住民との勉強会



住民から推薦された第1層協議体メンバー
H28. 12. 8たちあげ



住民代表6名・民生委員・商工会・JA・青年会議所・老人クラブ・シルバー人材センター・介護支援専門員・市・社協・愛育会・自治会6名
その後、コア会議発足

2層(小学校区)での説明会！ 気持が動いていく感触



伝えたこと

「あなたの暮らしている地域の現状」

「住民の皆さんの力を必要としている。行政が出来ることは責任を持つ」本気度を伝える。

参加者の6割がシニア世代の男性(役職)

・通知がきたから・・・義務感(多数)

・自分の意志(少数)

反応(質問)

「要綱は？行程表は？よくわからない事業」

「金がないから安上がりの住民を使うってこと？」

(終了後のアンケートから)

「わが地域の将来の厳しさに初めて気づいた！時間もある、やる気もある、そんな人達がきっと地域にはいる。自分もその一人になれる」

「この時代を創ってきたのも自分たちの世代、変えられる自分たちの世代かもしれない」

2年半の中で2層が全16地区で立ち上がった。
でも、具体策が出てこない。もっと身近な地域で話がしたい
住民の意志で第3層協議体(自治会圏域)は生まれた。



住民の気づいたニーズから有償ボランティア「藤田助け合い隊」が生まれる

同級生仲間やご近所さんが参加、身近な話題からリアルなニーズが見えてくる
「〇〇さんが最近きになるんだよね。」
ニーズが見えると活動が生まれる。〇〇さんのために居場所が必要なんだね。

小さな地区だと地域が見える

それぞれの目標・活動

地域のニーズと住民のできることがつながる

外出支援



男の居場所



獣害支援



活動から住民は学んでいく

ちっくいサロンの参加者がコロナ以後減ってしまったけど
今も参加されている人の中には、ここが
唯一の居場所の人がいることに気づく。
・参加人数じゃないんだ、一人でも必要と
している人がいるかなんだ

ゴミ出し支援



移動販売



有償ボランティア



居場所



小さな気づきを見逃さない。評価していく

楽しい活動

これって生活支援体制整備の活動？

(サツマイモづくり)



居場所・つながり



協議体：多世代交流・遊休農地の活用



SC(つなぐ)

市福祉総合相談課：障害児の家庭・居場所
を必要とする男性の参加

9年間の中で、1層、2層16地区、3層59地区生まれた・・・でも、難しい

年2回の情報交換会 思っていることを吐き出す場(いいことも悪いことも)



- ・ ニーズが見えない（専門職との連携）
- ・ 地域の課題は高齢者問題だけではない（行政との連携）
- ・ 自治会の理解不足
- ・ まだまだ周知が足りない。PR不足
- ・ 自分たちの小さな活動・これでいいのか
- ・ モチベーションを継続していくことの難しさ
- ・ 活動始めたけど、活動費に困っている

悩みをそのままにしない。
一つずつ、応えていきたい！

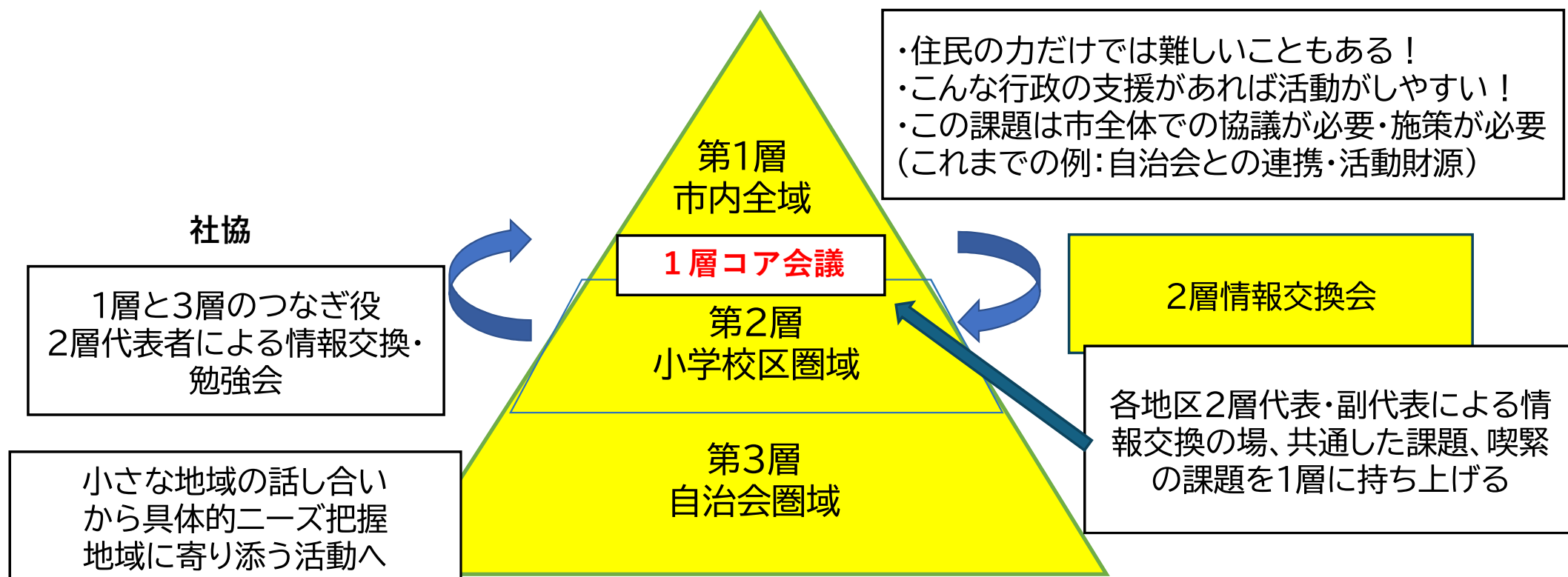
住民のモチベーションのために

住民の活動課題に真摯にむきあう 市・1層の取り組み

活動課題 (2層・3層から)	市・1層の対応
自治会との連携不足 行政との連携不足	毎年、自治会対象「協議体説明会」の開催 毎年、市職員向け協議体研修会開催
活動費がない	「第3層協議体支援交付金」の創設 (市民活動支援課との連携)
住民へ周知不足	広報特集記事 毎年新聞折り込みチラシの作成 毎年「地域支えあいフォーラム」の開催
住民だけでは解決が難しいけれど喫緊な課題	令和5年度1層の取り組みテーマ 「移動支援」 1層と2層の合同情報交換会の開催

話し合いの中で住民自身から生まれた3層を大切に！（1層・2層の役割）

介護福祉課



「誰もが暮らしやすいまち」 目的は同じ 市職員と共有

年1回 市職員協議体勉強会 住民から思いを伝える場



住民だけでできないこともある。一緒にやれたらうれしい

協議体って知らなかった。住民と力を合わせていい街にしたい」



自治会向け協議体勉強会



寸劇でわかりやすく

もう、2025年になっちもうじゃん
他人ごと地区 支えあい地区
のちがい

感想

- ・地域を愛し、本当の良くしようと思っている人がいることを知った。自治会と協力すればさらに大きな活動になる。
- ・自治会も今、苦しんでいる。役員になりたくない、地域に関心がない、そんな風潮の中、一筋の光が見えた。

モチベーション維持 小さな活動を見逃さない、応援していく
あんなことならできるかもしれない…担い手が広がる

全戸配布チラシで紹介するやりがいや楽しさ



87歳の3層協議体メンバー 子供たちの見守りができる喜び

活動発表の場



「ゴミ出しが辛くなってね。」つぶやきを受け止めた活動

志は次の世代につながっていく



地元のシニア世代の活動
の応援隊 高齢者宅等の
植木の伐採、環境整備等
「MAGONOTE」
勤務先もそれぞれだけれ
ど志は一つ

シニアの心意気に心動く

市・社協・SCで毎月行っ意見交換会

参加者;介護福祉課担当者・包括職員
SC・社協地区担当・CSW



議事録は介護福祉課課長以下全員回覧

市職員と社協職員、SCが毎月顔を合らし意見交換することで、各地区の住民の動き、SCの動きを共有する場である。

決して「居場所を何力所つくった」といった数値目標達成を評価する場ではない。住民が主体的にやりがいを持って「助け合いの地域づくり」を進めているか具体的な住民の声や実践活動のなかのエピソードとともにその時、SCとしてどう動いたか、どう考えたかを話し、それに対して意見を交換していく。

そのなかで目指している姿とぶれていないか確認、修正していく。

第1層SCとしての年間業務

日々の業務の中で目標・課題の共有
成果・変化を可視化

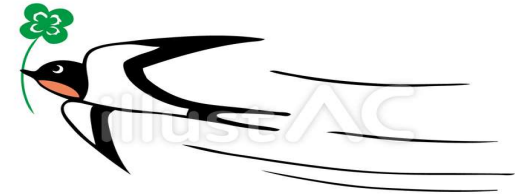
ある1か月の動き

- ・**新年度の方向性と年間スケジュール決める**
- ・第1層協議体コア会議 年間4回~6回
- ・第1層協議体開催 年間4回
- ・第2層・第3層協議体会議参加 年間約70回
- ・自治会対象協議体説明会開催
- ・市職員対象協議体勉強会
- ・広報特集記事作成
- ・支えあいの地域づくり実感フォーラム開催
- ・2層協議体・1層との情報交換会年2回
- ・専門職と協議体合同研修会
- ・一般市民向け協議体周知チラシ作成
- ・**1年間の成果・課題の確認**

- ・市担当・2層SCとの打ち合わせ
- ・市担当・包括・社協・SC意見交換会
- ・1層協議体コア会議 1回
- ・1層協議体会議 1回
- ・2層協議体定例会議・2層・3層活動参加
- ・参加後報告書作成
(会議の住民の発言、方向性、進捗状況、SCの感想、を報告書にまとめ課内回覧)
- ・包括・社協からの個別ニーズ相談
(個別ニーズと協議体と結び付いた事例報告)
- ・研修会・勉強会の企画・準備
- ・協議体からの相談
- ・資料作成

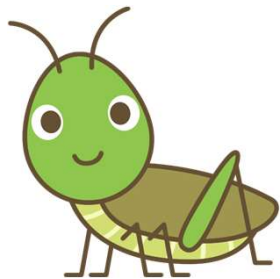
1層SCとして大切だなと思っていること

少し離れてみると何を悩み、何を応援したらいいのかが見えてくる



鳥の目

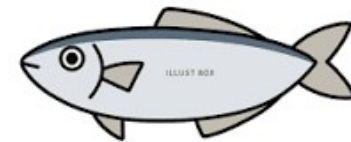
1層SCだけど、現場を知らないと全体も見えない



虫の目（現場でともに悩み、ともに汗をかくことで見えてくるものがある）

魚の目

向かおうとしている方向は間違っていないか流れをみる。変化を恐れない



生活支援コーディネーターになって10年、今思うこと

「自分らしく暮らしていける地域」「住民主体」

このことにこだわり続けてきた。住民が主役だ。SCは応援団
そのためには住民自身が本気で「私はずっとこの地域で自分らしく暮らしていきたい」と思うことが必要だ。そこから自分が出来ることは何かを見つけていく。見つけて動いていくと、形になっていくものがある。それは地域の誰かのためになっていく、それは自分自身の生きがいや喜びになっていく。そんな人たちとたくさん出会えた年月だった。

「生活支援体制整備事業」サービスづくりじゃなかった。地域の中に自分の意志で動いていく住民が1人から2人へと広がっていくことで地域が変わっていく。時間がかかるけど辛抱強く・・・

地域づくりに参加した後「私が体感した6感」

南アルプス市地域支えあい協議体

1層メンバー

金丸清人



共感



連帯感



存在感

- ・ 財源・人材不足による公的サービスの縮小⇒官民協働の地域づくり
- ・ 行政からの「やらされ感」の払拭⇒行政主導ではなく、住民主体へ
- ※ 住民主体とは「住民に選択権がある」こと
- ・ どのようにして「自分ごと」として捉えることができるか



達成感



わくわく感



幸福感

仲間がいるから、つづけていきます。
けれど、「私が始める」という気持ちがないとスタートできません。
一人が本気になって火をかければ、
やがて輪となって広がっていきます。

青山俊董 「泥があるから花が咲く」から



1層協議体のメンバー
金丸清人さん
が作った資料から